

「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせに。

福祉くるるべ



いやあ、めでたい。

特集 「生きる力を育む」

2023
01
January

スマイルワーカー 堀地宏美さんのお話

わかば会

子育てサロン

〔編集・発行〕 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 令和5年1月1日発行

この広報誌は一部共同募金の助成金により発行されています。

新型コロナウイルス感染症の県内での発生状況で、イベントの中止や休館となることがございますので、ご了承ください。自宅での検温、来館時にはマスクの着用をお願いいたします。

2023
1

介護予防のための

元気はつらつ体操教室

黒部市福祉センター
TEL.(0765)54-1082

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5 自力整体	6 健康体操A	7
8	9 成人の日	10 健康体操A	11 自力整体	12 音楽療法	13 健康体操B	14
15	16	17	18 脳トレ	19 健康体操A	20 自力整体	21
22	23	24 健康体操B	25 フレイル予防講座	26 音楽療法	27 音楽療法	28
29	30	31 自力整体	2/1 健康体操A	2 アロマ・ヨガ	3 体操	4

★令和4年4月より、生き生き倶楽部の予定は広報くるるべにて掲載しております。

★新規参加者随時受付中

- 健康体操A
樋口 瞬 先生
 - 健康体操B
炭田 亮子 先生
 - フレイル予防講座
明治安田生命
 - 音楽療法
岡島 聡子 先生
 - 自力整体
稲田 清美 先生
 - 脳トレ
くろべ 脳トレクラブ
 - アロマ・ヨガ
村田 あゆみ 先生
 - 体操
小森 亜希子 先生
- は休館日
時間/10:00~11:00
対象/65歳以上の方
参加費/300円(入館料のみ)

消防の
豆
知識

消防車のサイレン音

サイレン音の違いで災害の種類がわかります。

火災の出動

サイレンと鐘を交互に鳴らして出動
「ウ〜カン、カン、カン」「ウ〜カン、カン、カン」

火災以外の出動

交通事故現場での救助や警戒・救急支援・自然災害
「ウ〜ウ〜ウ〜」「ウ〜ウ〜ウ〜」

火災に対する巡回広報

火災が発生しやすい気象条件のときの注意喚起
「カン・カン」「カン・カン」

サイレンは、災害が起きたときに重要な役割を果たします。



今月の表紙

ママと一緒に遊んで笑顔がかわいい赤ちゃん。生後4か月で両手を目いっぱい上げている姿は、まるで「やったー!」と万歳しているようです。いろんなことに興味を湧き始める時期。これからの成長が楽しみです。

福祉・ボランティアに関することは

社会福祉法人 **黒部市社会福祉協議会**

<http://www.kurobesw.com/>



本所 黒部市福祉センター内

〒938-0022 黒部市金屋464-1 TEL.(0765)54-1082(代表) FAX.(0765)52-2797
TEL.(0765)57-1089(ケアセンター・ホームヘルプセンター) Eメール kurobesw@ma.mrr.jp

宇奈月支所・黒部市東部地域包括支援センター 黒部市ふれあい福祉センター内
〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山2111 TEL.(0765)65-1165 FAX.(0765)65-9533
Eメール tobu-houkatsu@kurobesw.jp

私たちは5GOALS for 黒部を推進しています



ちよこつと情報 [黒部市の人口] 40,154人 [65歳以上の人口] 12,909人 高齢化率 32.2% R4.11.30 現在



三谷昭人さん

おいしい牛乳を 生産できたときが嬉しい

くろべ牧場では約250頭の牛を育てており、そのうち搾乳牛は約70頭いて、1頭あたりから1日に約30キロの生乳を毎日搾っています。牛のほか、ヤギ、羊、ポニー、うさぎの世話をしているのは、三谷昭人（みたにあきひと）さんをはじめ11名のスタッフ。三谷さんは、「僕

たちは生産する側の立場で飼育員というよりは生産者に近いと思います。生産という視点で見ると、お乳を搾って皆さんに牛乳を提供することに牛たちの存在意義があります。その点で動物園やペットの動物とは違うし、僕たちも飼育員とは違うのかなと思います。『牛さん、かわいいね』と言っているだけではダメで、牛たちがおいしい生乳を出してそれを消費者の皆さんに飲んでもらう。そういうサイクルなので、健康なお乳をいっぱい出してくれることが僕たちにとっても嬉しいし、動物のためにもなっているのかなと思います」と話します。

くろべ牧場で働いて約14年。三谷さんは、牛が健康でたくさんさんの生乳が搾れたときや品評会に選ばれるようなきれいな牛に育ったとき、牧草がたくさん採れたときにやりがいを感じています。「搾乳できる量は気候や牛の体調によっても変わりますが、僕たちの管理の仕方関係してきます。牛が赤ちゃんを産んで乳を搾るんですけど、全部人工授精なんです。それぞれの牛にどんなお父さん牛を合わせればより良い牛になるかを考えています。例えば、もつとお乳が張る牛とかもつと体が大きくなる牛、もつとよつと体は小さくていいけど、お乳のバランスが良い牛とか。そうやって長年積み上げてきたものが形になって今後の乳生産につながるし、牛の美しさにもつながります。それが僕のやりがいでもあり楽しみでもありますね」と話します。



牧場では、年間約60頭の子牛が誕生しています。「まずは元気に生まれてくるのが牛にとっても僕たちにとっても一番。母子ともに健康であると安心しますね」と三谷さん。子牛といってもその重さは約35キロ。難産のときは2、3人のスタッフで思い切り引っ張って出産を手伝うこともあります。

特集 生きる力を育む



酪農教育ファームとして、動物たちとのふれあいや手作り体験を通して子どもたちの生きる力を育てているくろべ牧場まきばの風。酪農、加工販売、観光といった複数の産業が牧場内で行われ、多くの人々が訪れています。今回は、いろいろな機能を果たして魅力を発信するくろべ牧場を紹介します。

今から22年前に牛乳の他にも何か加工品を作れないか考え、最初に作ったのがソフトクリームでした。商品開発のために、他の地域の牧場を視察したり研修に参加したりしました。「うちの牧場の看板商品はソフトクリームだと思っていたので、一から配合を工夫して作り始めたんですけど、それが一番大変でしたね。何も始まってないゼロからのスタートだったので、数か月悩みましたね」と当時を振り返ります。そして、ジェラートの開発、プリンの開発へとつながっていきました。試行錯誤の末に完成したソフトクリームは、今では牧場の一番の人気商品となり来場者に喜ばれています。

加工場に届けられる生乳は1週間に約1トン。そこから、牛乳約600本、カップアイス約500個、プリン約300個、シフォンケーキ約50個が作られます。朝7時頃から生乳を受け入れる準備をして午前10時半頃まで加熱殺菌し、自分たちの目で見ながら温度を調整して味にばらつきが出ないように気をつけています。「牛乳という資源をどうやって活かすかが発着点で、素朴で家庭的なものを作りたいと思っています。大切にしていることは、必ず牛乳を使っていることとできるだけわかりやすい材料にすることです。お客様の体の中に入っていくものを作っているのが安全なものであることは大前提として、おいしいものを作って、実際に喜んでいただけたらSNSに載っていたりするとよかったですね」と話します。



時には、急に病気になって亡くなってしまいう牛もあり、なぜ病気になってしまったのかと考えさせられるところが、一番苦労する点でもあります。「立ち方がちよつと遅いとか、朝様子を見に行ったときに寝ているのか立っているのか、それだけでも全然違うんです。例えば、他の牛たちが寝ているのに1頭だけ立っていたら何か異常があったり発情期だったりします。牛はしゃべらないので排泄する瞬間を見ないと、お腹を壊していてもわからない。しっかりと見てあげないと大きな病気や亡くなることにつながってしまうので、他のスタッフにも動物たちの体調管理の大切さを伝えていきます」と話します。

また、牧草地の牧草作りもおもしろくなるように工夫しています。肥料をやり、種をまき、きちんと管理して牛のえさになる草を生やしています。牛がえさを食べて、排泄して、たい肥となって牧草地に戻る。この循環が農業の良い所でもあります。

わかりやすくしてシンプルに

牧場の店内や市内のスーパーなどでは、牛乳やソフトクリーム、ジェラート、プリン、焼き菓子などの商品を販売しています。その製造を担当しているのが浜田一（はまだはじめ）さんの他5名のスタッフです。



専用の機械で生乳を加工



店内の加工場で牛乳を瓶に注ぐ作業

全部ひっくるめて体験してほしい

牧場店内でソーセージ作り、アイスクリーム作り、バター作りなどの手作り体験事業を担当しているのは石川直子（いしかわなおこ）さん。「楽しんで帰っていただくことが一番かなと思っています。手作り体験はもちろん、パネルや牛乳パックなどを使って牧場ならではの牛乳に関する話もしています。また、牧場にいる動物を観察したりえさをあげたり、自然に触れてもらい、何か一つでも関心を持っていただけると嬉しいですね」と話します。

3つの手作り体験事業を基にした親子体験も企画しています。季節に合わせた内容や地元のものを使った内容になっています。これまでに、パフェ作りや、地元産の焼き芋に手作りバターを付けて食べたり、市内のパン教室の先生と一緒にホットドッグ作りを実施しました。

「例えば放牧している牛を見るだけでも、小さいお子さんと見上げるくらいになるんですよ。柵越しに見ると体全体やおっぱいの大きさがわかると思うので、『あそこから出てきたミルクだよ』と実感をもって伝えられます。また、牛のお世話をしているスタッフを見たお子さんたちに、『毎日1日2回朝と夕方約70頭の搾乳をしているよ』と伝えると、スーパーに並んでいる牛乳に対しても何かを感じて大切に飲んでくれるかなと思っています。店内で



商品一例(シフォンケーキ、プリン、ミルクコーヒー、牛乳)



浜田一さん

実は黒部で、 こんな事 やっています!

Vol.24

町内を越えて楽しい時間を過ごす

「他の町内の人たちとも集まりたい」という思いで始まってから10年以上となる「わかば会」。軽体操や小物づくり、お楽しみ会などを企画して月1回、東布施公民館に集まっています。救命救急講習など、いざという時に役立つ内容もあり、みなさんの知りたい気持ちがあふれて活気に満ちています。「みんなで話すと楽しいし、認知症予防にもなると思うので、みんなで意見を出し合って楽しく続けていきたいです」とわかば会の方々は話してくださいました。



救命救急講習で心臓マッサージの演習



わかば会

活動日：毎月第2月曜日 午前9時30分～11時

活動場所：東布施地区防災コミュニティセンター（東布施公民館）

問合せ先：TEL.(0765)58-1021

活動レポート | 10月27日(木)若菜ふれあいセンター

ママたちも子どもたちも交流できる場

すこやか子育て支援センターと若栗地区の合同で子育てサロンが開催されました。親子でスキンシップをしながら手遊び歌をすると、子どもたちの笑顔が弾け、大きな絵本の読み聞かせでは、子どもたちは集中して聞き入り楽しんでいました。参加したママ同士が話しているのを見て、世話役の平野真理子さんと金田里江子さんは「ママたちと交流できると私たちも元気をもらえます。参加されるお子さんが日々成長していく姿を見られて癒しになっています」と話されました。

子育て支援センターや地区の公民館などで行われている子育てサロンに、参加してみませんか。



若栗地区から子どもたちへプレゼント



実施している手作り体験で完結せず、実際現場を散策してもらいたいです。たい肥や動物の匂い、動物たちとの触れ合い等五感を使って体験してもらうことも大切に行っています」と話します。

いろんな機能を果たす場所

くろべ牧場では、地元の農家にたい肥を卸しており、そのたい肥を使って農家の方々は野菜を作っています。そして、牧場側は牛のベッドとなるもみ殻やえさとなる野菜のくずを農家からもらい、互いに支え合う関係ができています。石川さんは、「店内で牧場ミルクを使った商



石川直子さん

品が楽しめます。季節によって味の違う牛乳の飲み比べも面白いと思います。また、牧場には飲食以外にも楽しみがあります。夏には親子で昆虫採集、冬には雪遊び、富山湾に沈む夕日の写真撮影等、自分なりの楽しみ方を見つけて自由に過ごして欲しいです」と話します。

三谷さんは、「酪農という産業が、くろべ牧場という場所が、黒部市において、富山県において、日本において必要な存在になって、食料生産基地としてみなさんに貢献できるように場所になっていくといいなと思います。そして、黒部の農業が盛り上がってほしいなと思っています」と話します。また、浜田さんは、「定年退職するまでに、もう一つか二つ牛乳を使った商品を作れたらいいなと思っています」と話し、石川さんは、「地元の様々な団体と協力して新しい体験メニューを実施できたら良いなと思っています。また、演奏会や発表会なども牧場で企画してみたいです」と話します。

私たちが食べ物を作るまでには、原材料を作り出してくれる動植物がいて、それらを育てる人たちが、加工する人たち、市場へ届ける人たちがいます。そういった人々たちへの感謝、食べ物への感謝の気持ちを持って生活すること、普段の暮らしの幸せにつながっていくのではないのでしょうか。そして、生活を支えてくれる産業と生きる力を育んでくれる場所が一体となった空間が、私たちの身近にあることを感じました。

黒部市福祉センターのお知らせ

休憩時間/9:30~16:00 入浴/10:30~15:30
※休憩時間、入浴時間が短縮になっております。

新型コロナウイルス感染症の県内での発生状況で、イベントの中止や休館となることがございますので、ご了承ください。

1月

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1月は演芸、ステージ発表をいたしません。

休館日 毎週月曜日(9日・16日・23日・30日)
年末年始のため
12月30日~1月3日まで休館日です。

2月

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月は演芸、ステージ発表をいたしません。

休館日 毎週月曜日(6日・13日・20日・27日)
祝日の翌日のため12日・24日は休館日です。

催し物と休館日のご案内

今月のクラブ

ポールウォーキング

金曜日(13日・27日) 13:30~15:00
場所:石田交流プラザ(現地集合)

囲碁・将棋クラブ、元気カラオケクラブにつきましては新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1月は開催を中止とさせていただきます。



誕生日のお祝いに福祉センターの入浴券はいかがですか?
11枚綴り・・・3,000円



あの人 雪を嫌いになってしまう前に。

白くてきれいな雪は、まちを銀世界に変えてしまう魔法のようです。でも、たくさん積もってしまうと毎日の暮らしに「困ったなあ」をたくさん作ってしまいます。「あったか雪募金」は、雪がたくさん積もって困る皆さんを支えるための募金です。雪と生きるわたしたちの町ならではの、あたたかい気持ちを募っています。



実施期間 | 2023.1.1日 ▶ 3.31日
※寄付付きチラシ・募金箱を市内各所に設置し、募金を募っています。

お問い合わせ 黒部市共同募金委員会
富山県黒部市金屋464-1 TEL.0765-54-1082

今月の相談日

弁護士と法律相談

■黒部市福祉センター(金屋464-1)
1月17日(火) 13:30~15:30 / 予約受付1月4日より※先着4名
相談内容問わず、年度につき
1人3回までのご利用とさせていただきます。

富山県東部生活自立支援センター 生活自立支援相談

■黒部市福祉センター(金屋464-1)
1月16日(月) 10:00~11:30 / 予約受付1月4日より

新型コロナウイルス感染症の県内での発生状況で、相談員の変更や中止となることがございますので、ご了承ください。

Q. お仕事に対する思いを教えてください。

障がいや発達に特性のある、3歳から18歳までのお子さんと日々関わり、職員全員で話し合いながら一人ひとりに合った支援計画の立案と管理をしています。そして、お子さんや親御さん、職員一人ひとりの思いを聞くことを大切にしています。

下のお子さんが上の子たちと一緒に関わって成長していく姿、上のお子さんが下の子たちを思いやる気持ちを育てていく姿を見ると、同年齢ではなかなか味わえない経験ができていと感じます。今を全力で生きるお子さんたちの一瞬一瞬が全て大切な時間だと思うので、その時間を常に共有できることがこの仕事の魅力だと思います。

スマイル ワーカー



児童発達支援管理責任者
堀地宏美さん
(ほりち ひろみ)



株式会社KUROBE Five-O
高志野ベースLEFT



趣味
高校野球の観戦

活動レポート | 11月21日(月)~22日(火)黒部市福祉センター 大広間 / 黒部市国際文化センター コラーレ

事例を通して多職種連携と相談支援を学ぶ

愛知県半田市社会福祉協議会の前山憲一事務局次長を講師に招き、保健・医療・福祉などの専門職向けくろベネット研修会と事例検討会(21日)、身近で住民から相談を受ける方や行政相談員、生活支援員向けの研修会(22日)を開催しました。

21日は本人に寄り添う支援と多職種連携について学び、実際に今課題を抱えている事例対象者の情報を全員で共有しながら事例検討をしました。

22日は「断らない相談体制づくりのために」と題して講義が行われ、伴走型支援の大切さや身近で気軽に相談できる場所、体制づくりの大切さを感じる時間となりました。



前山講師が進行役で事例検討



講義を聞く参加者の皆さん